

日用品で制作! 本陣飾り物

本陣飾り物の歴史は江戸時代までさかのぼり、参勤交代で本陣に泊まる殿様や役人の労をねぎらうため、商人たちが日用品で飾り物を制作したことが始まりといわれています。コンクールは昭和35年に始まり、金津地区の18地区が毎年テーマを考え制作し、出来栄を競います。

金津本陣 KOSKA セン トピアあわら、新富・天王・新・六日・水口・古区の本陣(常設展示場)で作品の一部を展示します。



市の無形民俗文化財「金津祭」が、7月15日から17日までの日程で行われました。祭りのメインである中日祭では、新区の神社神輿や、春日区の「弁慶勸進帳」、天王区の「狐忠信」、榛ノ木原区の「徳川家康」の3基の人形山車が、金津地区を巡行。それぞれの地区の本陣飾り物の前で太鼓や踊りを奉納しました。迫力満点の太鼓や、華やかな舞いに、各地区は大変な盛り上がりとなりました。

昨年引き続き、今年も3基が金津神社前に集結。歴史的瞬間をカメラに収めようと、市内外から多くの見物客が訪れました。